



成田市場・空港検疫所 視察レポート

農業ICT研究会

視察日：2023年7月21日（金）

1. 視察経緯・目的

以前より、国内の食料自給率の低さは課題として取り上げられているものの、近年は、ウクライナ紛争等による飼料・肥料の流通停滞、円安での価格高騰により、食の安定供給が脅かされていることから、消費者の手元に農作物が届くまでの仕組みを理解するため、2023年1月に移設し、ワンストップ物流などで話題となっている成田市場を視察するとともに、関係企業として、物流・卸売業者と、輸出入検疫を取り扱う検疫所の視察・意見交換を実施しました。

2. 参加企業〈8社・団体／12名〉

株式会社大和コンピューター／株式会社バース情報科学研究所／イナゾウ株式会社／日本事務器株式会社／日本スーパーマップ株式会社／ネクストウェア株式会社／株式会社ヒューマンテクノロジーズ／一般社団法人ソフトウェア協会

3. 行程

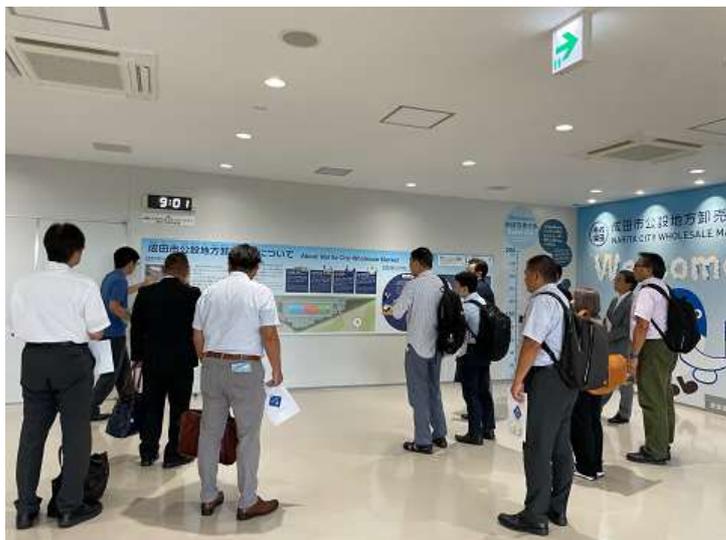
時間	場所
9:00～10:00	成田市場
10:00～11:00	NAX JAPAN株式会社
11:00～12:00	シティ青果成田市場株式会社
12:00～13:30	休憩・移動
13:30～14:30	成田空港検疫所
14:30～15:30	横浜植物防疫所 成田支所

4. 視察：成田市場 様

成田市場の視察では、地の利を生かした成田空港隣接地への移転の経緯と、農水産物出荷後から消費者の手元に届くまでの流れ、さらに、高機能物流棟におけるワンストップ輸出拠点機能（加工、輸出手続き（輸出証明書の交付、検疫など））の仕組みについてご説明いただきました。

高機能物流棟を挟んで、青果・水産にわかれているため、左右の行き来だけで、効率よく輸出・出荷ができる点も、成田市場の特徴です。

成田市場（1F）



移転後の令和4年の成田市場からの輸出額は約14億円を計上しており、移転前の令和3年の約1億円から大幅に伸び、その後も順調に推移しているそうです。

4. 視察：NAX JAPAN株式会社 様

続いて、輸出手続きなどのサポートと物流を取り扱うNAX JAPAN株式会社様に訪問し、意見交換を行いました。

NAX JAPAN株式会社の中森様からは、輸出入の大まかな流れ、市場移転後のワンストップ物流、手続きを一元管理するNACCS(※)などについて説明いただいたのち、高性能物流棟の冷蔵・冷凍施設と加工施設、ワンストップ物流の肝となる検疫場所をご案内いただきました。

その後、意見交換を実施、国をまたぐ取引をする上でのシステム化の困難さ、検疫官が市場で検疫する仕組みを整備するまでの苦勞、輸出の申請機関が地方厚生局（厚生労働省）から地方農政局（農林水産省）に変更になったこととその影響など、様々なお話を伺いました。参加者からは多くの質問・発言がなされ、予定時間を超過するまでになりました。



※NACCS：貿易関連の行政手続きと民間業務をオンラインで行うシステム
<https://www.naccs.jp/aboutnaccs/>

4. 視察：シテイ青果成田市場株式会社 様

その後、青果の卸売業者であるシテイ青果成田市場株式会社様と意見交換を実施しました。

代表取締役の小谷様からは、スマート農業や輸出の現状と課題、適正価格・販売取引の決定までの流れ、移転後の成田市場での取引の状況などについて、わかりやすくご説明いただくほか、今後自社で予定している新しい取り組みとして、農家でも容易に輸出ができるような、輸出サポート事業の開始を予定している旨もご説明いただきました。



<休憩> 関連食品棟「とんじん」

お昼休憩では、成田市場内、水産棟のとなりにある関連食品棟にある食堂で昼食をとりました。

現時点では1店舗のみの営業でしたが、棟内には複数店舗が開店に向けた準備を進められており、今後はさらに「集客施設棟」も建設が予定されているそうです。



4. 視察：成田空港検疫所（食品監視課） 様

午後には場所を移動し、入場許可を受けた方以外は入場ができない、検疫所のある成田空港貨物ターミナル地区に入りました。



出典：成田国際空港株式会社

はじめに、食品監視課の方より、海外から輸入される食品等の流れや、食品輸入品目の割合、実際に輸入された食品などについて、ご説明いただきました。

その後、貨物ターミナル地区内（撮影禁止区域のため写真はありません）を視察し、荷物が保存されている上屋や、フォークリフト・車載に積み荷している様子を実際に視察しました。



4. 視察：植物防疫所 様

視察最後の行程では植物防疫所より、青果の輸出入時の検疫の流れ、品目ごとの検疫の違い、技術の習得方法などについてお話を伺いました。

輸入検疫は、国内に病害虫の侵入を防ぐことを目的としているのに対し、輸出検疫は相手国の要求によって、検査・基準が異なるため、同じ品目であっても、輸出先に応じた検査・対応の仕方が必要とされ、大変である、ということでした。傾向として、相手国の主要農作物は高い検査基準であることが多いそうです。

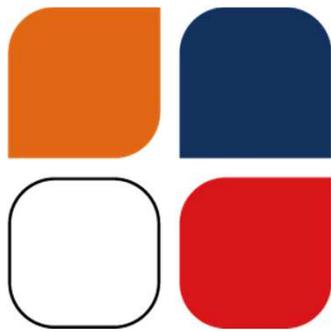
参加者は、検疫の仕組みを初めて耳にする方も多く、質問が活発に行われました。

最後に検疫を実際にする施設を視察させていただき、無事に視察を終了しました。



5. 参加者感想

- 成田市場において、物流と公的認可の流れに改善を加えて競争力を強化している事を知り勉強になった。
- 検疫の役割や作業内容についての説明を受け、一連の輸出入の流れを包括的に知ることが出来た。
- 時間の関係で、実際の市場を見れなかったのが残念でしたが、「ワンストップ輸出機能」や新しい取り組みを見学できたので非常によかったです。
- 成田空港に近いという立地条件にマッチングした一体化サービスの試みは素晴らしいと思いました。



▼掲載内容に関する問合せ

一般社団法人ソフトウェア協会 農業ICT研究会

E-mail : gyoumu1@saj.or.jp